

湾曲型 PLF スティック 臨床使用例

監修・画像提供：下関市立市民病院 整形外科 部長 山下 彰久 先生



湾曲型 PLF スティックの特徴

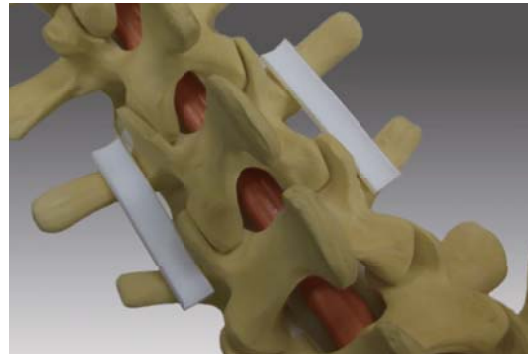
- 1 横突起、棘突起との接触
横突起、棘突起との接触面積を広くするアーチ形状をしています。
- 2 骨移植
骨移植が行いやすいように、幅広で湾曲した形状をしています。

Feature & Benefit

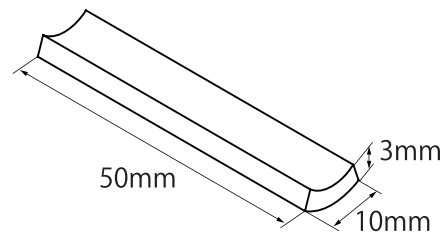
●特徴

- 1) 骨癒合に優れた気孔率55%の
ハイドロキシアパタイト製です。
- 2) 横突起との接触面積を広くする
アーチ形状をしています。
- 3) 骨移植が行いやすいように、
湾曲した形状をしています。

●イメージ画像



●製品仕様



品番	気孔率	入り数
L5-016-PB-052-1050	55%	1

症例1 L1骨粗鬆症性椎体骨折、遅発性脊髄症に対するL1 VCR

L1骨粗鬆症性椎体骨折、遅発性脊髄症に対してL1 VCRを行った。L2/3横突起上に通法に則りPLFスティックを使用した（図1）。その後、TH11/12、L2/3棘突起を両側から挟み込む様にPLFスティックを補填する手法（図2 以下、棘突起サンドイッチ法）を行い、PLFスティック上に自家骨を移植した。術後CTでは棘突起サンドイッチ法で補填したPLFスティックの湾曲が棘突起の局面に沿って設置されていることが確認できる。

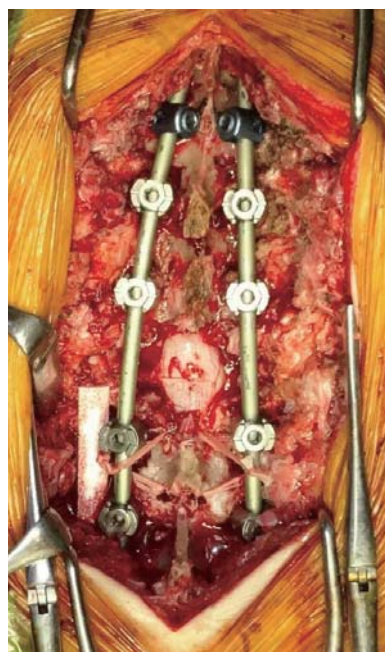


図1 L2/3横突起上PLFスティック設置後

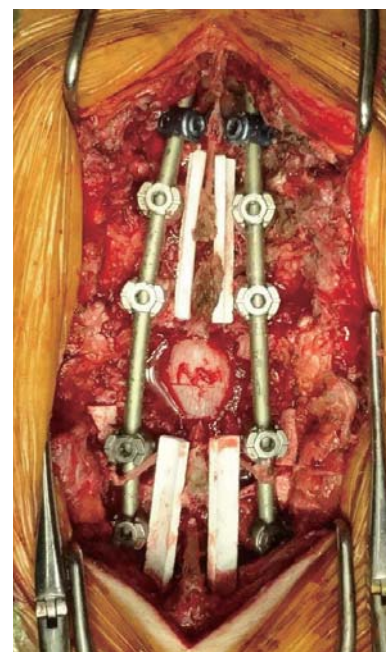


図2 TH11/12、L2/3棘突起サンドイッチ法後



図3 PLFスティック上骨移植後



図4 術直後CT (TH12)

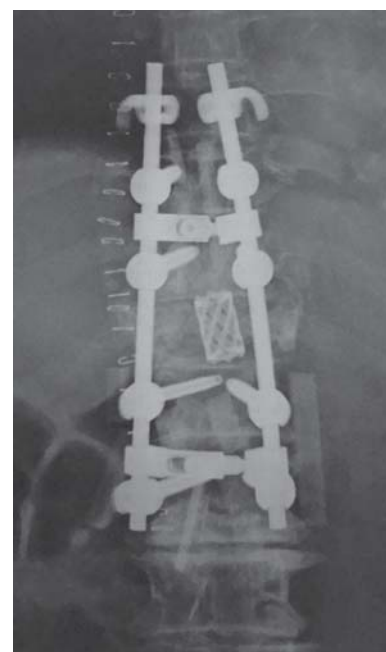


図5 術直後X線正面像

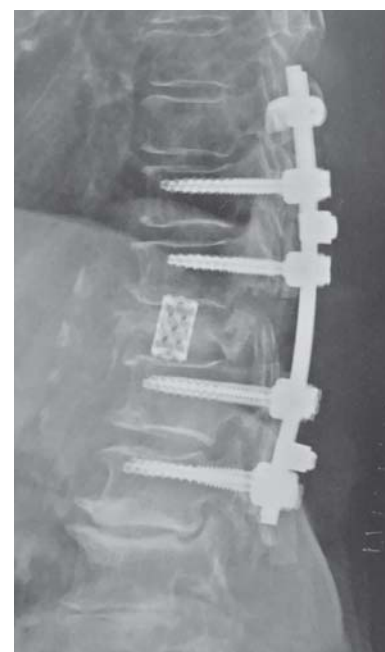


図6 術直後X線側面像

症例2 外側ヘルニアに対するMIS-TLIF

L4/5 外側ヘルニア、椎間孔ヘルニア（64歳 女性）に対してMIS-TLIFを行った。右側はPPS、左側はミニオープンTLIFを行い、ミニオープン側の横突起上にPLFスティックを補填した（図10,12 矢印部）。術後3ヶ月CTでは横突起とPLFスティックが間隙なく接触していることが確認できる。



図7 術前X線正面像



図8 術前X線側面像

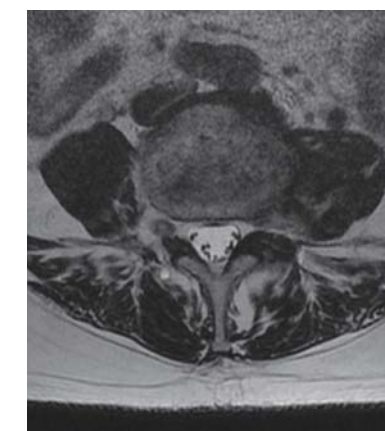


図9 術前MRI (L4/5)

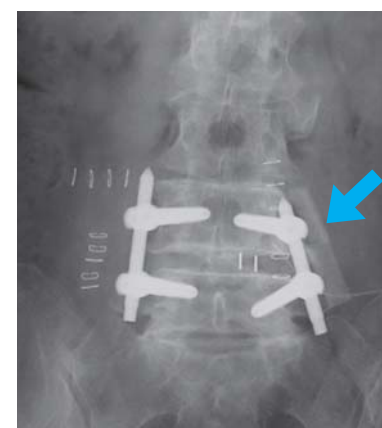


図10 術直後X線正面像



図11 術直後X線側面像

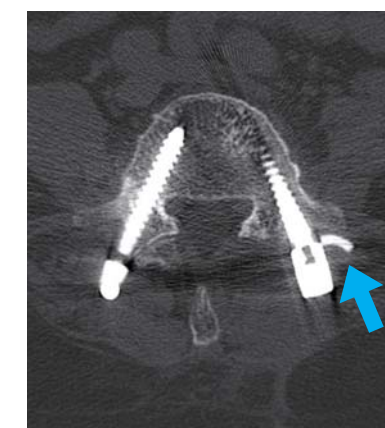


図12 術後3ヶ月CT (L4/5)

症例3 L5椎体骨折変形癒合、L4分離すべり、腰仙部後弯症に対する除圧固定

L5椎体骨折変形癒合、L4分離すべり、腰仙部後弯症（81歳 女性）に対して除圧固定術を行った。椎弓をDecorticationした後、通法とは異なり湾曲を腹側向きに設置。その上に自家骨移植した後、Facetにも被るように、さらにPLFスティックを設置（図15 矢印部）。

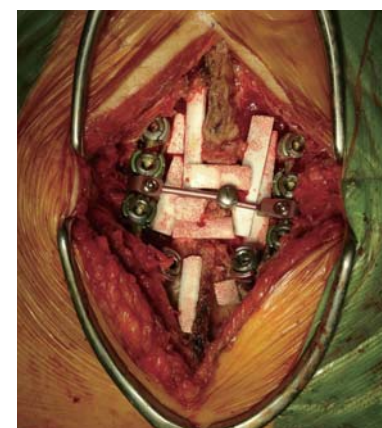


図13 術中画像



図14 術後X線正面像



図15 術後CT像 (L5)